

岩倉市国際交流協会セミナー

世界への道—今、伝えたい、海外ボランティアの魅力—

7月17日（月・祝）、生涯学習センターで、国際協力機構（JICA）の企画調査員としてモンゴルで活躍されている増田誠さんから、海外ボランティアの魅力について語っていただきました。当日は、今年3月まで青年海外協力隊の一員としてモンゴルの小学校で図工教育を実践してきた加藤絵美さん（春日井東高校教諭）にも同席していただき、体験談を紹介してもらいました。会場には、モンゴル行きを控えた中学生海外派遣団員も同席しました。

はじめに増田さんから「海外ボランティアとは?」「どのような人たちが、どのような活動をしているのか?」について、ビデオを見ながら、JICAについてとモンゴルでのボランティア活動を紹介してもらいました。青年海外協力隊がモンゴルに派遣されて今年で25年。この間、モンゴルを取り巻く国内外の状況は大きく変化してきました。隊員の人数も増え、活動も首都ウランバートルでの日本語教育から農村部の保健衛生まで幅広くなりました。隊員は出発前、福島県二本松の訓練センターで事前研修を行い、モンゴル語も学習します。増田さんによると、言葉は現地でどんどん吸収していくので、出発前の語学力はあまり問題ではなく、それより身体と心の健康が重要!とのこと。増田さん自身は、かつて中米エルサルバドルに隊員として派遣され、現在では企画調査員として担当地域の隊員が困らないように後方から支える仕事をしています。

加藤さんは増田さんの担当地域の隊員の一人でした。ウランバートルから300km以上離れた村の小学校で、図工授業の実践をしていました。これまで、モンゴルの図工は旧ソ連的な学習指導要領によって、自由な発想より模倣することが中心でした。子どもたちは、加藤さんの創意工夫を大切にする授業にはじめは戸惑ったものの、次第に自由な発想を开花させ、色とりどりの作品を仕上げていきました。加藤さんは、担当校だけでなく、近隣校、さらには同期隊員が派遣されているマレーシアやガーナ、そして日本の学校ともSNSを通じ絵画等の作品の交流を図りました。冬の寒さなど生活面での語り尽くせぬ苦労もあったようですが、JICAの企

画調査員らの支えもあり、充実した1年9ヶ月だったようです。

隊員は派遣先での活動も一人ではなく、受け入れ先、後方支援など多くの人によって支えられていることが今回のお話しでよくわかりました。青年海外協力隊（20歳～39歳）だけでなく、現役世代の専門技術を活かそうとシニア世代もシニア海外ボランティア（40歳～69歳）として世界で貢献しています。健康で、チャレンジしてみたい人は是非挑戦してみたいはいかがでしょうか。



▲講演していただいた加藤さん(左)に増田さん(右)

モンゴル派遣同行記

8月3日(木)、岩倉市中学生海外派遣団とともに、引率として7泊8日でモンゴルに行ってきました、宮田 拓夢です。

僕は、中学生海外派遣団の一員として2011年度にマレーシアに行かせてもらいました。僕がそのとき感じたことを一人でも多くの生徒に感じてもらいたく、引率として参加させていただきました。中学生として参加したときは、全く違う発見ばかりで、視点を変えるところも世界が変わるものなのだなどと教えられた点が多々ありました。



▲新モンゴル高校の前での集合写真

メンバーが決まってから出発までの間に研修を何回も行なうと、生徒たちも徐々に打ち解けていき、会話が増えてきたなと感じていました。実際モンゴルへ行ってみると、研修期間ではあり得なかったくらい生徒たちが仲良くなっていました。学年や学校が違い、普段の学校生活では到底関わらないような生徒たちが、みるみるうちに仲良くなっていく様には驚かされました。特にそう感じたのはゲルでのキャンプです。

今回も訪問させていただいた新モンゴル高校のキャンプ場にご一緒させていただきました。ここでは、新モンゴル高校の生徒と同様の生活を行いました。新モンゴル高校の生徒とバスケットボールやバレーボール、薪割りをしたり、乳搾りに向かったり、裏にある山に登ったりと、普段の生活では体験できないようなことを、僕を含め楽しみました。日が昇ってから落ちるまで、とにかく遊び尽くしました。ここで、一番みんなの仲が深まったのではないかと思います。



▲草原で乗馬体験もしました。

市内観光ではバス移動が多かったのですが、僕を含めバスの中も賑やかなものでした。最初モンゴルに着いたときに乗ったバスの中とはまるで違う雰囲気、みんなが仲良くなったのだなとさらに実感しました。

あっという間に終わった8日間でしたが、とても記憶に残るものでした。ここで出会えた仲間は一生ものだし、思い出とともに大切にしたいです。また、この経験が今後の生徒の人生に良い影響を与えてくれることを期待しています。

(宮田 拓夢)

昔遊びで日本を楽しむ

5月27日(土)～28日(日)に名古屋芸術大学の留学生7人を迎え、昔遊び体験とホームステイを行いました。留学生が生涯学習センターの和室に集まり、色とりどりのゆかたに着替え、抹茶のお点前体験をしました。

教わったお点前でホストをお迎えすることで、留学生とホストとの距離が一気に近くなりました。そして、ホスト家族と一緒にお手玉遊びと手遊びをして、日本の昔遊びを体験することができました。夕方から翌日までは各家庭でホームステイをして、それぞれ素敵な体験をして過ごされたようです。

～ホスト家族のKさんより～

我が家に来た留学生とは、日本と彼女の母国の文化の比較の話、学生生活についてなどたくさん話すことができました。お家まで送った際、子供が彼女ともっと一緒にいたかったと泣き出してしまい大変でしたが、それくらい楽しかったんだと嬉しい気持ちになりました。この体験もあり、さらに世界に住む人の暮らしや文化について知りたいし交流したいと思いました。

うるかむ to Iwakura!! Vol.4

第4回は、高校1年生のモンゴルからの留学生、ナサンバト・ドゥルグーン(Nasanbat Dulguun)さんにインタビューしました。彼女は4年前、岩倉市中学生海外派遣事業で交流している、ウランバートルの新モンゴル高校から来た訪日団の一人です。そして今回は、名古屋大学附属高等学校に1か月の高校留学のために来日しました。

編集者(以下「編」): どうしてそんなに日本語が上手なの?

ドゥルグーン(以下「ドゥ」): 小学校の時に、兄がモンゴル語の字幕で見ていたアニメの「ドラゴンボール」が好きになりました。もっと先が見たくなって、英語の字幕のものをしているうちに、気が付いたら日本語と英語が分かるようになっていました。

編: 日本での失敗談はある?

ドゥ: 私の日本語はアニメから覚えたものなので、お世話になっていた日本の方に「あなたたち…」と言うところを「おまえら…」と言ってしまいました。(笑) また、モンゴルでは、足を踏んだり踏まれたりしたら、握手をする習慣があります。高校生の男子の足を踏んでしまったときに握手を求めたらびっくりされてしまいました。

編: 将来の夢はある?

ドゥ: 好きなことがたくさんあります。洋服をデザインして作って、コンクールで優勝したこともあります。医者にもなりたいし、国連でも働いてみたいです。大学は、先輩たちがたくさん通っている名古屋大学に進学するのが夢です。

編: インタビューに答えてくれてありがとう。モンゴルに帰っても勉強頑張るね。そしてまた、岩倉に来てね!



◀名古屋港水族館にて。

世界のお惣菜～トルコ料理を教わりました～

世界のお惣菜（トルコ編）が、7月16日（日）に生涯学習センターで行われ、大人18人、子供1人の計19人が参加しました。

蒲郡市在住の、竹田ガムゼさんとシェンソーリさんを講師に迎え、トマトスープ、キュルダンケバブ（ハンバーグの茄子包み）、ピラフ、サラダの4品の作り方を教えてもらいました。

キュルダンケバブは、手が込んでいて、見た目からご馳走で、とても美味しかったです。

講師の教え方はとても上手で、分かりやすく、家でも作ってみたいと思いました。

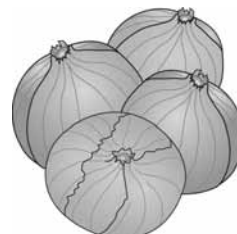


▲今回教えてもらった料理。どれもとても美味しかったです。



▲丁寧に、分かりやすく教えてもらいました。

トルコ人は、まな板を使わず、何を切るのも手の上でやっていたのには驚きました。特に、玉ねぎのみじん切りを手の上でやっていた妙技には本当にびっくりしました。トルコの文化に触れた一時でした。



会員継続手続き及び新規会員申込手続きのご案内

事業は会員皆さまの会費と岩倉市国際交流事業補助金で運営されています。平成29年度も引き続き、会員継続手続きとして下記の口座へ会費のお振込みをお願いします。新規会員申込手続きについては、下記問合せ先にご連絡をお願いします。

会費振込先 いちい信用金庫愛北営業部 普通預金 1016300
口座名義人 岩倉市国際交流協会 内藤和子

会費 1口1,000円とし、個人会員（家族会員）は3口以上、高校生以下はジュニア会員として1口、団体会員は10口以上です。

問合先 内藤 (0587-66-7347) 出野 (0587-37-2495) 竹安 (090-1230-2444)

会報 COM第92号 (2017年9月1日) 事務局 〒482-0021 岩倉市新柳町3-21-2 (内藤方)
発行 岩倉市国際交流協会 TEL・FAX 0587-66-7347
印刷 大橋印刷所 HP:<http://www.iies.info/> mail:iies2017@yahoo.co.jp